

資料 1

令和 7 年度事業報告及び 令和 8 年度事業計画について (飯能市地域公共交通計画の評価等の結果)

令和 8 年 6 月 2 4 日

飯能市地域公共交通対策協議会

<地域公共交通計画の評価等結果の様式>

資料1-1

飯能市地域公共交通計画の評価等結果（令和7年4月～令和8年3月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
基本目標1に対する目標指標 指標1-1 ・実車走行距離あたり利用者数（市内全路線） 基準値1.62人／kmから 基準値以上 指標1-2 ・実車走行距離あたり利用者数（地域幹線） 基準値1.77人／kmから 基準値以上	・施策1 地域主体の利用促進事業 ・施策2 交通事業者等による利用促進事業 ・施策3 市主体のモビリティ・マネジメント ・施策4 利用者への支援制度の充実 ・施策5 担い手への支援の充実	対象となる交通事業者への照会	年間輸送人員／実車走行キロ （令和7年度） 指標1-1 ・市内全路線 2.03人／km 指標1-2 ・地域幹線 2.10人／km	・市と交通事業者が締結している運行継続のための協定に基づく補助金を継続する。 ・観光施策と連携した公共交通の利用促進事業を引き続き推進する。 ・その他、必要に応じてバス路線の見直しや運行環境の整備について検討する。	
基本目標2に対する目標指標 指標2-1 将来(10年後)の外出に不安を感じる人の割合 ・当初63% ⇒ 63%未満 指数2-2 路線バスを年間1回以上利用した割合 ・当初34% ⇒ 40%以上	・施策1 利用しやすい待合環境の整備と情報発信 ・施策2 乗継環境と道路環境の整備 ・施策3 バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化の推進	市民アンケート調査	—	・公共交通の現状等について、各種事業及び市広報紙等の媒体を通して引き続き情報発信に努める。 ・市内の公共交通の路線や使い方について、「飯能市公共交通マップ」を活用し、より市民（利用者）に対してわかりやすく周知をする。 ・高等学校等の生徒等に対する通学費補助を継続する。	「達成状況・分析」については、令和9年度のアンケート調査を基に実施する。
基本目標3に対する目標指標 指標3-1 飯能市乗合ワゴン(精明地区・加治地区)の収支率 ・当初15.0% ⇒ 20.0% 指標3-2 公共交通利便地域の人口割合 ・当初65.2% ⇒ 現状維持	・施策1 需要と供給に対応した路線設定 ・施策2 地域資源の総動員による移動手段の確保 ・施策3 交通事業者と市のパートナーシップの継続	指標3-1 運行事業者への照会 指標3-2 国勢調査の人口メッシュデータを使用し、算出	（令和7年度） 指標3-1 ・飯能市乗合ワゴンの収支率 16.0% 指標3-2 —	・精明地区、加治地区のコミュニティバス路線については、地域からの要望や道路状況の変化に応じて運行経路を検討する。 ・社会資源の活用により、公共交通が不十分である地域における移動手段確保を継続して行う。 ・指標3-1収支率については、物価高騰により経常費用は増大しているものの、利用者の増加により令和7年度は目標に近づけることができた。 ・次年度は利用者数の変化に係る要因を分析していく必要がある。	指標3-2の「達成状況・分析」については、令和7年度実施予定の国勢調査を基に実施する。

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「—」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

第2次飯能市地域公共交通計画

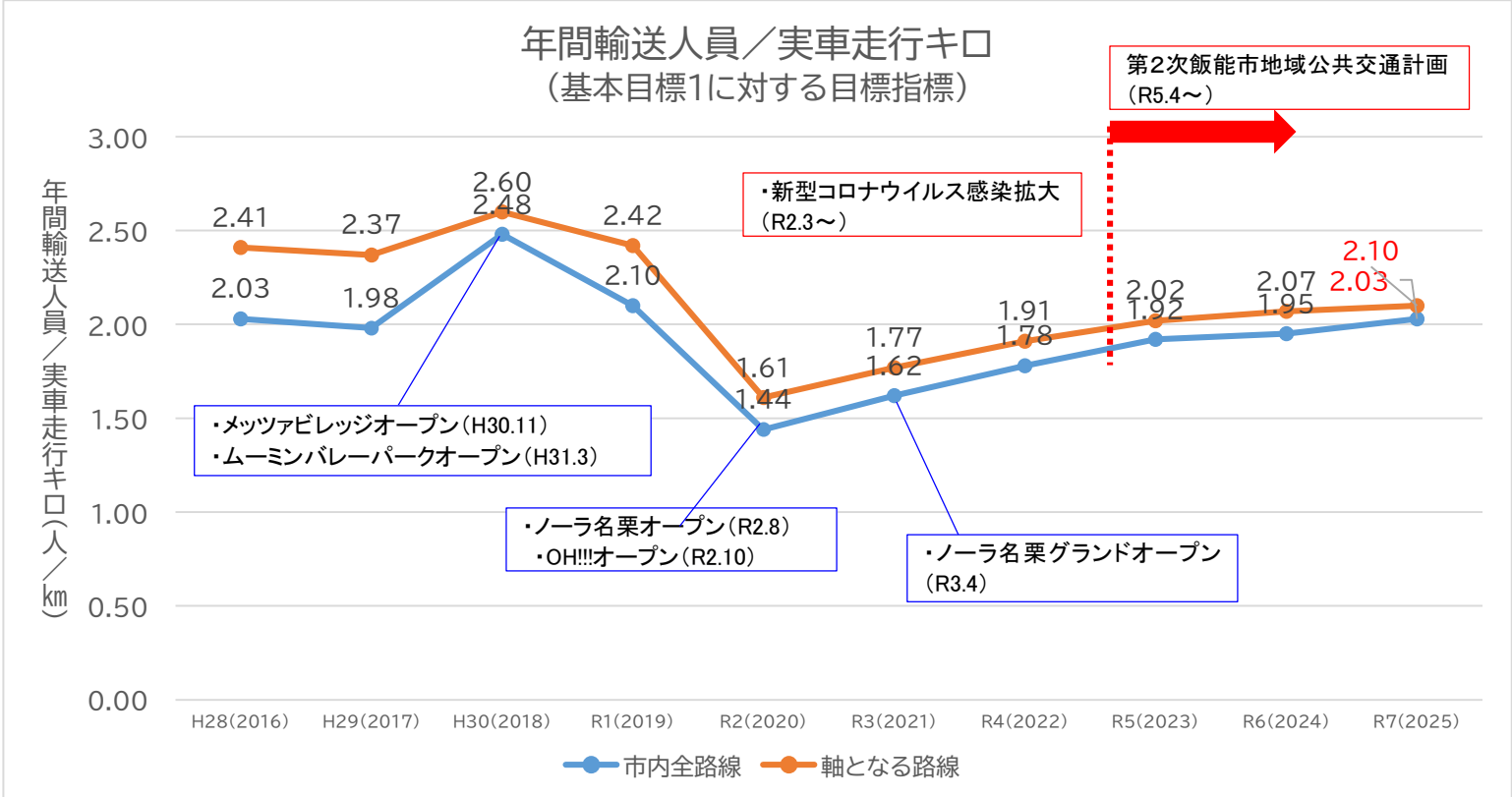
資料 1-1 参考資料

■基本目標1「みんなでまもり、育てる地域公共交通」に対する目標指標

指標 1-1 市内全路線 当初 1.62 人／kmから基準値以上

指標 1-2 軸となる路線 当初 1.77 人／kmから基準値以上

■数値推移（H28～R7）※第2次飯能市地域公共交通計画はR5～



軸となる路線：

- ・国際興業バス 名栗本線（湯の沢線、名栗車庫線、名郷線、上赤沢線）、双柳循環線、西武飯能日高線
- ・西武バス 美杉台線
- ・三社共同運行 メッツァ直通線

■基本目標3「みんなでつくる公共交通」に対する目標指標

指標 3-1 飯能市乗合ワゴン（精明地区・加治地区）の収支率 当初 15.0%⇒20.0%

■数値推移（R4～R7）

指標	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値
指標3-1 飯能市乗合ワゴン（精明地区・加治地区）の収支率	15.0%	16.1%	14.5%	13.3%	16.0%			20.0%

参考：24 ページ記載 1 便あたりの利用者数達成状況

指標	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	目標値
（計画24ページ） 飯能市乗合ワゴン（精明地区・加治地区）の1便あたりの利用者数	3.71人	3.83人	4.20人	4.02人	4.98人			5人

【基本方針】暮らしを支える地域公共交通の実現をめざして ～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～

基本目標1：みんなでまもり、育てる公共交通

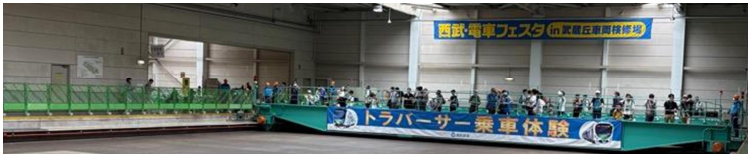
■施策1 地域主体の利用促進事業

- お散歩マーケットの開催（春・秋）（間野黒指バス停）
（春）5/4（日） 実施（晴） 参加者 759人
（秋）11/16（日）実施（晴） 参加者 400人
主催：お散歩マーケット実行委員会 協力：市、国際興業(株)
- 名栗のほたる鑑賞のつどい（ノーラ名栗・さわらびの湯バス停）
6/28（土）実施 会場：ノーラ名栗
主催：名栗観光の会 後援：奥むさし飯能観光協会
- 名栗ふるさとまつり（ノーラ名栗・さわらびの湯バス停）
10/5（日）実施 会場：ノーラ名栗 参加者 約2,300人
主催：名栗ふるさとまつり協賛会
名栗ふるさとまつり会場に名栗地区を運行している国際興業バスを配置し、自由に見学・乗車したり、制服・制帽の着用による撮影会を実施した。
また、ふるさとまつり会場内に停留所に見立てたスタンブリー台を設置し、118件の参加があった。



■施策2 交通事業者等による利用促進事業

- 「西武・電車フェスタ2025 in 武蔵丘車両検修場」
6/7（土）実施 会場 武蔵丘車両検修場（日高市台462-1）
主催：西武鉄道株式会社



- 武蔵野鉄道開業110周年トレインの運行
4月15日に現在の池袋線の前身である「武蔵野鉄道」が開業110周年を迎えたことを記念し、10月22日より車内の中づりを沿線自治体（西武線沿線サミット）のポスターでジャックし、記念ヘッドマークを掲出した「武蔵野鉄道開業110周年トレイン」を運行した。
- メッツァ・ハイパーミュージアムおでかけバス（デジタル）
ムーミンバレーパークおでかけバス（デジタル）の販売
①西武線全線が1日乗り降り自由の乗車券
②飯能駅北口～メッツァ間のバス往復乗車券（バス3社）
③ムーミンバレーパーク1デーパス または
メッツァ・ハイパーミュージアムおでかけクーポン
3点がセットになったデジタル企画乗車券を販売



© Moomin Characters TM

■施策3 市主体のモビリティ・マネジメント

- 「飯能市公共交通マップ」の配布
市内公共施設、駅、観光施設で配布
転入者、運転免許返納者（飯能警察署協力）に配布
- バスの乗り方教室の開催（国際興業）
日時：10/5（日）
対象：名栗ふるさとまつり参加者
会場：ノーラ名栗
内容：名栗地区住民（主に子ども）を対象に、普段から地域を運行する国際興業バスの乗り方を学ぶ教室を開催した。



■施策4 利用者への支援制度の充実

- 運転免許自主返納者に対する奨励策の実施 ※（ ）内前年度比
65歳以上の方で免許返納をした方に1回限り5千円を交付
実績：交付件数 318件(+21件) 交付金額 1,590千円(+105千円)
- 高等学校等通学費補助制度による支援 ※（ ）内前年度比
実績：交付件数 164件（+5件） 交付者数 160人(+10人)
人数内訳：高校93、大学46、専門11、中学8、短大1、専修1
地区内訳：名栗18、原市場104、永田台26、その他第二区11、南高麗1
補助金額 約10,603千円(+1289千円)
※4月1日の運賃改定により、補助金額が増加

■施策5 担い手への支援の充実

- 「飯能市公共交通マップ」及びホームページに担い手募集記事掲載
バス運転士・タクシードライバー等募集記事を掲載
- 「奥武蔵らくらく交通」への補助金の交付
運行事業、自動車保険及び設備整備事業に対して補助金を交付
運行回数：1,166回 輸送人員：1,494人



市HP

基本目標2：みんなが使いやすい公共交通

■施策1 利用しやすい待合環境の整備と情報発信

- 飯能市乗合ワゴン（精明・加治・原市場・南高麗）
GTFS データリポジトリにデータの登録・公開
引き続き GTFS データリポジトリにデータの登録・公開を行い、新たに「ナビタイム」に掲載された。

■施策2 乗継環境と道路環境の整備

- 区画整理事業の進捗（双柳・笠縫・岩沢）
区画整理事業の進捗により、3月22日（日）、阿須小久保線（岩沢工区）
旧国道299号までの区間が開通した。



基本目標3：みんなでつくる公共交通

■施策1 需要と供給に対応した路線の設定

- 精明地区・加治地区飯能市乗合ワゴンの停留所移設・統合
3月31日 停留所の移設・統合（「双柳南」移設、「向原団地」統合）
- 新モビリティサービスの導入可能性の検討
「ムーミンに会えるまち、はんのう」プロジェクト推進協議会が主体となり、電動マイクロモビリティのシェアリングサービス「LUUP（ループ）」の長期設置実証実験を行った。
（令和7年12月1日～令和8年3月31日）

■施策2 地域資源の総動員による移動手段の確保

- 「社会福祉法人名栗園送迎車を活用した住民移送事業」実証運行
市と社会福祉法人名栗園の確認書締結により、精明地区において地域住民の移動の足を確保するため、実証運行を引き続き行った。
令和7年度「名栗園移送サービス」実績
運行日数：毎週金曜日 50日
利用者数：延べ22人
- 「飯能リハビリ館送迎車両の空席を活用した住民移送事業」実証運行
市と医療法人徳明会の協定締結により、南高麗地区において地域住民の移動の足を確保するため、実証運行を引き続き行った。
令和7年度「飯能リハビリ館移送サービス」実績
運行日数：毎週火曜日 52日
利用者数：延べ35人
登録者数：53人



■施策3 交通事業者と市のパートナーシップの継続

- 令和7年度飯能市地域公共交通事業者支援金の交付
原油価格・物価高騰などの影響により、燃料費等の運行経費が増大している交通事業者に対し事業継続に向けた支援を行った。
路線バス3事業者、タクシー4事業者
- 路線の維持のための補助金の交付
地域乗合バス路線対策費補助金交付要綱に基づき、補助金を交付した。
補助金交付路線：国際興業バス 湯の沢線、名栗車庫線、名郷線、上赤沢線
イーグルバス 飯能駅・宮沢路線
- 精明地区・加治地区 飯能市乗合ワゴン「おでかけむーま号」の運行（国庫補助活用）
精明地区・加治地区において運行した。

令和7年度飯能市乗合ワゴン運行実績		おでかけむーま号	
・運行便数	1,136便(±0) 142日 ※（ ）内前年度比	・利用者数	5,647人(+1078) 便平均 4.98人 (+0.96)
・精明東	1,579人(+165) 便平均 5.55人 (+0.75)	・精明西	1,217人(+222) 便平均 4.28人 (+0.78)
・加治	2,851人(+691) 便平均 5.02人 (+0.34)	※月ごとの便平均の平均値	



第 2 次飯能市地域公共交通計画 令和 8 年度事業計画（案）

【基本方針】暮らしを支える地域公共交通の実現をめざして ～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～

基本目標 1 みんなでまもり、育てる公共交通 ～利用促進・意識啓発・担い手支援～			基本目標 2 みんなが使いやすい公共交通 ～運行環境整備・利便性向上～			基本目標 3 みんなでつくる公共交通 ～地域公共交通網のり・デザイン～		
目標指標	基準値（R3）	目標値（R9）	目標指標	基準値（R4）	目標値（R9）	目標指標	基準値（R4）	目標値（R9）
実車走行距離あたり利用者数 （市内全路線）	1.62 人／km （スクール路線を含む）	▶ 基準値以上	将来（10 年後）の外出に不安を 感じる人の割合	63%	▶ 63%未満	飯能市乗合ワゴン（精明地区・ 加治地区）の収支率	15.0%	▶ 20.0%
実車走行距離あたり利用者数 （地域幹線）	1.77 人／km	▶ 基準値以上	路線バスを年間 1 回以上利用し た割合	34%	▶ 40%以上	公共交通利便地域の人口割合	65.2%	▶ 現状維持
施策 1：地域主体の利用促進事業			施策 1：利用しやすい待合環境の整備と情報発信			施策 1：需要と供給に対応した路線設定		
○地域団体による利用促進 ・地域が主体となり、公共交通を使ったイベントやスタンプラリー 等を実施する。			○飯能市乗合ワゴン（精明・加治・原市場・南高麗）GTFS データリ ポジトリの登録情報の更新 ・時刻表変更等の最新情報を更新し、各種乗換案内サイトで検索を 可能にする。			○飯能市乗合ワゴンの運行内容変更・検討 ・各地域の要望や利用実績により利便性 を維持しつつ、効率的な運行となるよう 検討を行う。		
施策 2：交通事業者等による利用促進事業			○待合い環境の整備方針の作成検討 ・停留所へのベンチ設置について、関係者と協 議しながらルールを作成を検討する。			○交通空白地解消に向けた検討 ・国、県のサポートを受けながら、何らか の対応が必要な交通空白地解消に向けた施策の検討を行う。		
施策 3：市主体のモビリティ・マネジメント			施策 2：乗継環境と道路環境の整備			施策 2：地域資源の総動員による移動手段の確保		
○公共交通を理解してもらう取組の実施 ・市内のイベント等においてバスの利用促進に繋がる啓発活動 を実施する。			○飯能駅前・東飯能駅前ロータリーの使い方の検討 ・ロータリーの使い方や情報提供の方法について必要に応じた改善 を行う。			○送迎バス等の活用 ・飯能リハビリ館移送サービス実証運行を継続して実施する。		
・「飯能市公共交通マップ」を活用するなど、 わかりやすい公共交通を目指した取組を実施 する。			○市内道路環境の整備 ・元加治駅周辺について、南口駅前広場や接続道路の配置を検討し、 関係機関との協議を重ね、交通ネットワークの構築に向けて整備 を進める。			・社会福祉法人名栗園移送サービス実証運 行を継続して実施する。都度、利用状況、 地域の需要により、今後について法人と 協議する。		
・図書館との連携展示や出前講座を実施する。			・阿須小久保線の整備など市内道路網の課題解決に向けた取組を推 進する。			施策 3：交通事業者と市のパートナーシップの継続		
施策 4：利用者への支援制度の充実			○下加治地内「飯能靖和病院」（イーグルバス）停留所付近の交差点 改良工事を実施し、道路環境の整備を行う。			○市補助金の支出による路線の維持・確保 ・市と国際興業㈱との協定に基づき、湯の沢線、名栗車庫線等の 運行に対する補助を実施する。		
○高等学校等通学費補助制度の継続 ・市内在住通学者を支援するため、引き続き補助を実施する。			施策 3：バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化の推進			・市とイーグルバス㈱との協定に基づき、飯能駅・宮沢路線の運行 に対する補助を実施する。		
施策 5：担い手への支援の充実			○飯能市乗合ワゴン（精明・加治）のキャッシュレス決済導入検討 ・運行事業者である西武ハイヤー㈱と協議し、検討を進める。			○国庫補助制度等の活用による路線の維持・確保 ・地域内フィーダー系統補助金を活用し、飯能市乗合ワゴンの路線 の維持を行う。		
○公共交通空白地有償運送事業補助制度の継続 ・引き続き自家用有償旅客運送事業者を支援する。						・国庫補助制度を継続して活用するための検討・協議を行う。		
○市内での国交省認定講習会の開催 ・市内自動車学校で講習会を実施する。								
○担い手不足解消の検討 ・その他交通事業者等の運転士（担い手）不足解消のための取組を 検討する。								

